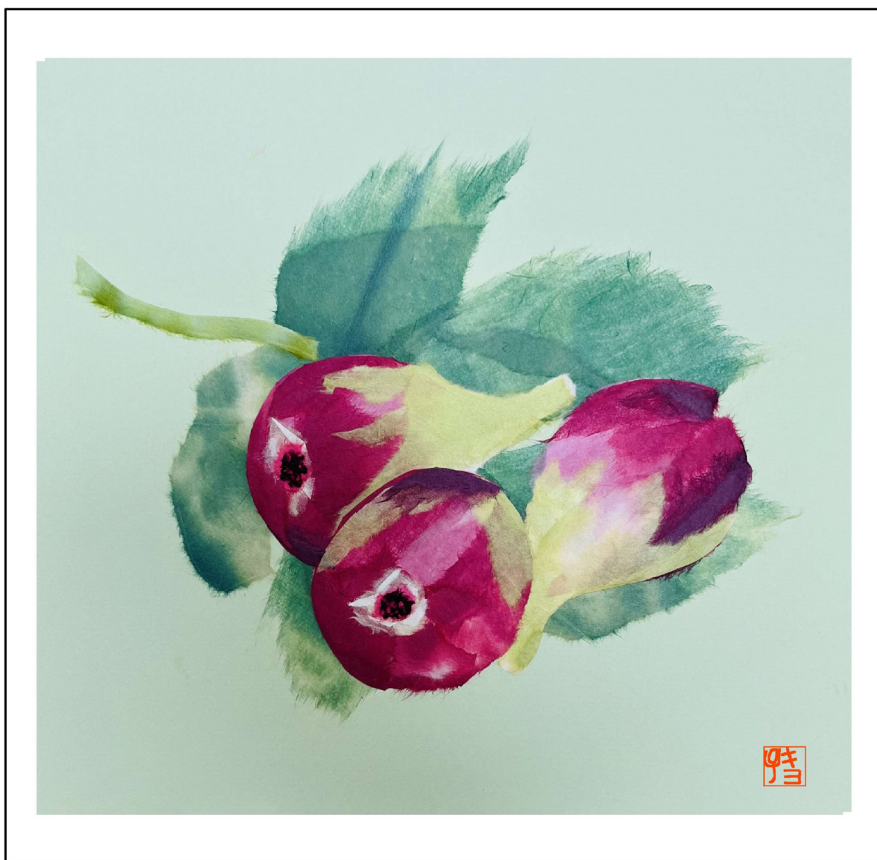


婦人会報

令和五年
9月2023年
立教186年



天理教婦人会旭日支部

通巻531号

十月例会案内

日時 十月五日(木) 午前十時
 場所 旭日大教会
 内容 教祖祭

お願いづとめ

お手なおし(十一下り、十二下り)

昼食

※ 昼食は食堂にてお召し上がり頂けます。

※ 社会状況により変更になる場合がございます。

十月例会役割

扨者	生駒恵美子	関	薫
賛者	松田よし子	前田	理恵
指図方	南本サツエ		

女子青年例会案内

日時 9月23日(土) 13時45分〜16時

内容 若人の集いあつとめ練習、月次祭コーヒー
 ショップのスイーツ準備など

◎月次祭参拝強調日 九月二十四日(日)

※女子青年への参拝のお声かけをお願いします。

※例会日が16日↓23日へと変更になりました。



九月月次祭炊事当番

係員 杉本 幸 松田 直美

※9時までにはエプロン・三角巾を持参の上お越し下さい。

九月月次祭親子参拝場ひのきしん当番

係員 南本のぞみ 岩崎真理子

◇四月より「月次祭託児」ではなく、育成室にて親子で参拝する部屋を「親子参拝場」として設けていますので、ご利用下さい。

午前九時十五分より祭典終了までです。



支部実動日 9月28日、29日、30日

9月は「にをいがけ強調の月」

「おつとめの心構え」

vol.13

今回は「九下り目」
について述べさせ
ていただきます。



●九下り目（慶応三年）【参考文献『みかぐらうたの世界をたずねて』道友社編】

◎一ツ ひろいせかいをうちまわり

一せん二せん^{※1}でたすけゆく

※1 「うちまわる」

|| あちこちと歩く。巡回する。

一ツ 広い世界を拝んで回り一銭二銭でたすけて行く

◎二ツ ふじゆうなきやうにしてやらう

かみのこゝろにもたれつけ

二ツ 不自由のないようにしてやろう。神の心にしつ

かりもたれよ

◎三ツ

※2
みればせかいのこゝろにハ
よくがまじりてあるほどに

三ツ 神の目から見れば、人々の心には、欲が混じつ
ているので……

※2 「みれば」

|| 見渡す。

◎四ツ

※³
よくがあるならやめてくれ
かみのうけとりでけんから

◎五ツ

※⁴
いづれのかたもおなじこと
しあんさだめてついでこい

◎六ツ

むりにでやうといふでない
こゝろさだめのつくまでハ

◎七ツ

なか／＼このたびいちれつに
しつかりしあんをせにやならん

四ツ

欲があるなら止めてくれ、神は受け取ることができないのだから

※³「よくがあるならやめてくれ」

|| ① たすかりたいと願うことをやめてくれ。

② その欲をやめてくれ。

五ツ

どこの者でもみな同じことで、思案して心定めて随いて来るように

※⁴「いづれのかた」

|| どんな境遇の人でも、年齢、男女、職業、

国籍の如何を問わず、親神様のおてびきを

を頂いて信仰させて頂くように成った者。

六ツ

無理にこの道に出ようと言うのではない、心定めにつくまでは

七ツ

なかななか、この度、みな、しつかり思案をしなければならぬ

◎八ッ

※5
やまのなかでもあちこちと
てんりわうのつとめする

八ッ

山の中でもあちらこちらと、天理王のつとめ
をしている

※5「やまのなか」

|| 天理教の教理によって清められていない心。
又は天理教の弘まって居らぬ所の意。

◎九ッ

こゝでつとめをしてるれど
むねのわかりたものハない

九ッ

この屋敷でつとめをしているけれど、神の胸
の内を分かっている者はいない

◎とてもかみなをよびだせば

※6
はやくこもとへたづねだよ

いづれにしても、神名を呼び出してつとめを
するのならば、早くこの屋敷へ尋ね出るがよ
い

※6「とても」

|| いかようにしても。どっちみち。どうせ。結局、
しよせん。どうせ・・・だから(なら)いっそ。

においがけおたすけの心得について歌われています。真実を尽くし運び、欲を忘れて心を澄まし、しっかりと思索して、心を定め、その上で、たすけを願い出よ、と述べられています。

【天理王のつとめについて】

「天理王のつとめ」は、「かんろだい」を離れた「やまのなかでも、あちこち」各地に行われる「つとめ」、つまり、各教会や、信者宅に於て行われる「つとめ」である。「天理王のつとめ」は、「朝夕のつとめ」の如く、各地に勤行されるもの乍ら、「十二下りの手踊り」も伴うものと考えられ、この点、本勤に対しての略式とも云えないが、しかし、「かぐらつとめ」とは云い得ない。

(中山正善著『続ひとことはなし』その二『より』)

母親講座開催報告

去る8月5日(土)、婦人会旭日支部母親講座を開催致しました。教祖祭・お願いつとの終了後、大教会会議室にて、映画『つまねる』を上映させて頂きました。参加者は大人42名・子供3名でした。



参加者感想

「つまねる」という映画は、4組の夫婦の妊娠・出産についてのドキュメント映画でした。

命は授かるもの。私たちは親神様よりのからだをお借りしています。そのママをどうして産むのを受け止める、ロタをどうして通らして通らせないか、いのちをお教えいただきたいように思います。目の前におもむろに困難や苦難ながらも、信仰があるからといって、長い時間を要したとしても有難いと思えるものも知れません。

映画を通して、妊娠や出産が決して自分の思い通りに願いたいものではないのだと改めて感じました。命を授かるという当たり前ではないことに感謝し、目の前におもむろにいたが子がいつか話をしていければいいと思っております。

(Y・Sさん)

妊娠から出産に渡る、それぞれの家庭の素晴らしい映画を鑑賞させて頂き、まずは感謝申し上げます。

映画の中で、出産当口に出直された赤ちゃんがいました。きょうご夫婦は、当たり前に我が子が産まれ、当たり前に子育てができること、夢を膨らませていたことのように、誰もがそう思います。ご夫婦の心中を考えますと、本当に胸が痛みました。

信仰を押し頂く身うち、強い思いがあります。妊娠出産は親神様教祖の大きなご守護の中で、一筋縄ではない十月十日を、奇跡の連続で繋いで頂いてくれるのです。個人的な話になりますが、私は結婚から七年で子どもを授けて頂きました。人間業では不可能な所を、勿体ないご守護をお見せ頂き、今日まで母子共に順調にお育て頂きました。映画を拝見しどんな命であっても…どんな事が起きても…と、覚悟が決まった訳ではないけれど、どんな事も神様の思惑がある、あつた、と考えさせて頂いた次第です。(T・Hさん)

委員部長後継者及び教会子弟夫人 講習会開催報告

去る8月27日(日)、委員部長後継者及び教会子弟夫人(茜の会)講習会を開催いたしました。

昨年、茜の会の各自が「別席、をびや許し、おまもり」について勉強し提出してもらい、それをまとめて資料にしたのを読み合いました。支部長様からは御供(ごく)についてのお話もしていただきました。

その後、参加者一人一人が自分の年祭活動について思うところを述べて勇ませ合いました。これを機に更にしっかりと教理の要諦を胸に治めて人様を導く信念を培い、年祭活動に勇んでいただきたいと思います。

参加者は対象者6名、子供7名、係4名、託児ひのきしん1名でした。
(後継者係・記)



旭日若人の集いのご案内

日時 : 10月28日(土) 12時45分受付開始
13時開会 16時30分終了予定

対象 : 高校生から40歳までの男女

内容 : 式典・おつとめまなび・お楽しみ行事

参加費: 500円



所属の教会にお申し込み下さい。

「我が事と思てくれ」

何程、どうしてやろうかこうしてやろと思たて、
皆そもくではどうもならん。

皆人の事とも思わず、我が事と思てくれ。

(おさしづ 明治33年9月21日)



発行日 令和五年九月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八

天理教婦人会旭日支部